

①株式会社マツイ印刷【福井県勝山市】



印刷屋さんドットコム

「グリーンプリンティング認定など、環境に配慮した新しい取組に挑戦する小さな印刷工場」

従業員数 13 名／事業内容 商業印刷・ノベルティ等の制作／VOC 使用用途 印刷インキなど

取組効果・ポイント



ノン VOC インキ、
低 VOC 洗浄剤等
への切替による
排出量削減



環境負荷
低減
LED-UV 印刷の
全面採用による
電力使用量削減



健全な
職場環境
若い人材や女性の
採用及び定着



顧客獲得
環境配慮型の印刷
工場として新たな受
注・引き合いが増加

- 環境配慮に取り組む印刷工場に付与される「グリーンプリンティング認定」を、福井県で第 1 号に取得。自社の取組を再確認しながら申請書を作成し、現地審査の際に審査員からアドバイスを心得て見直しを図る。
- 社長自らが企業ビジョンや VOC 排出抑制にかかる作業工夫を従業員へ丁寧に訴求し、共通認識を得る。
- 環境配慮型の印刷工場として、行政関係や首都圏など他地域での受注や引き合いが増加。

ノン VOC インキ、低 VOC 洗浄剤の採用等に取り組むグリーンプリンティング認定工場

日本印刷産業連合会が認定する「グリーンプリンティング認定」の福井県第 1 号企業。その後、「クリオネマーク」ゴールドプラス取得や RoHS 指令への対応も実践。

それらの対応に伴い、ノン VOC インキや低 VOC 洗浄剤、非石油系の湿し水（印刷インキが付着しない箇所の刷版を湿らせる液体）の採用、適切な排気を実践するのに加え、従業員も自主的取組を推進。

環境配慮型の印刷工場として評判が広まり、行政関係や首都圏など他地域での受注や引き合いが増加している。



同社が環境配慮型印刷工場として認証取得し、表示できるマーク。左がグリーンプリンティングマーク、右がクリオネマーク(環境保護印刷マーク)ゴールドプラスで、それぞれ独自の認定番号(赤線箇所)がある。



P19-0116

VOC 排出抑制をめぐる課題、取組のきっかけ

事業継承を進める中で、企業の魅力づくりの一環で環境配慮型の印刷工場の特徴を打ち出し、グリーンプリンティング認定の取得に挑戦。

マツイ印刷は人口 2 万人強の小さなまち、福井県勝山市にある従業員数 13 名の小さな印刷工場である。2000 年頃より業界では一早くネット印刷事業に参入することで、北海道から沖縄まで、日本全国から顧客を獲得している。

2017 年より 3 代目社長を務める松井朋樹さんは、事業継承するに当たり、企業の魅力づくりの一環として環境に配慮した取組への注力を決断。第一弾としてグリーンプリンティング認定に向けた取組を進めていった。

「1983 年に母が創業し、父が設立した会社ですが、父が早期に社長を退任した後は血縁関係ではない従業員が、2 代目を十数年務めました。2 代目は、ネット印刷への早期参入、LED-UV 印刷をはじめとする最新装置の導入など、先端的な取組を進めていき、付加価値の高いビジネスを牽引してきました。

私が事業継承を検討することになった際に、新しい会社の特色を打ち出すものとして、入社してから製造現場で様々な経験をする中で、これからは環境配慮型の印刷工場として質を高めることが重要だと考えました。実践するに当たり、いろんな認証制度を調べたところ、グリーンプリンティング認定は、当社で既に一定基準まで取り組んでいることを確認したので、トライすることになりました。」



社内ミーティングの様子。若い人材や女性が多い。

自主的取組の目標や方向性の設定

グリーンプリンティング認定にかかる申請書作成を通じて、環境に配慮した取組を再確認。現地審査での審査員アドバイスで見直しを図る。

グリーンプリンティング認定は、日本印刷産業連合会が環境配慮に取り組む印刷工場に付与する認定制度で、使用する装置や各種溶剤など資材に加え、電気や水道の使用量、産業廃棄物の適正処理、騒音、災害時の避難経路など、あらゆる環境に配慮した取組を元に採点されている。

同社では、取組を証明するための必要書類を収集・整理した後、現地審査を経て 2017 年 3 月に認定を取得。取得における一連の取組は、環境配慮型の印刷工場として取り組むべきことを見直す良い機会になったと言う。「申請書作成時には、行政機関に何度も足を運ぶなどして必要書類を整理しました。厚みのあるファイル 3 冊分に及ぶ提出資料を作成するのに半年ほどかかりましたが、取組の全体像を理解することができました。また、現地審査の際には、審査員から改善アドバイスをとても丁寧にいただき、取組の見直しをすることもできました。」

その後、同社では 2019 年 4 月にクリオネマーク（事務局：環境保護印刷推進協議会）における最高クラスのゴールドプラスを取得している。

取組を軌道に乗せるためのポイント

県内業者の協力を得て、予算に見合った印刷資材・装置を購入。社長自らが従業員へビジョンや作業工夫を丁寧に訴求し、社内で共通認識を得る。

グリーンプリンティング認定やクリオネマーク ゴールドプラスを取得すると、それら認定基準に沿って環境配慮型の装置や資材の切替が必要となるため、それら取組によるコストアップや作業効率の低下が懸念される。

同社では、コストアップについては、顧客へのサービス提供価格に反映しないよう、装置や各種資材のメーカーとのコーディネート役を担う県内業者にその思いを伝え、メーカーとの価格交渉や適した製品の選定などを業者に任せすることで、装置や資材の切替をスムーズに進めていった。

また、現場では、溶剤変更による洗浄能力の低下、ノン VOC インキの使用による印刷スピードの低下などの課題が出てくる中で、社長自らが従業員に「これからは環境配慮型の印刷会社として、全国のお客さんにアピールしていきたい。そのためには、新しい装置や資材を使っても作業効率を低下させないノウハウや工夫が必要だと思う」というビジョンを伝え、理解を得た上で、対応策を作業員と社長が一緒になって模索していった。

取組効果、今後の展開

ノン VOC インキ、低 VOC 洗浄剤等への切替で VOC 排出量を削減。LED-UV 印刷の全面採用により、電気使用量の削減も達成。

同社では、VOC 排出量に関する精緻な測定は行っていないが、各種認定制度の取得を通じて、ノン VOC インキや有機則非該当・PRTR 非該当の低 VOC 洗浄剤、非石油系の湿し水を採用することで、VOC 該当物質の使用量が大幅に減り、排出量の削減につながっている。また、適切な排気に加えて、従業員も廃ウエス（機械の清掃等で使用する布切れ）やゴミ箱、インキ入れの蓋閉めの徹底、定期的なミーティングによる作業員間でのルール確認等の取組を実践している。さらに、LED-UV 印刷の全面採用により、電気使用量の削減も達成している。

環境配慮型の商品企画など、新しい取組にも果敢にチャレンジしていく。

一連の取組を通して、同社は環境配慮型の印刷工場として評判が広まり、行政関係や首都圏や関西の企業などから新規受注が増えている。松井さんは、さらなる取組も模索している。

「最近、東京方面から見積依頼が突然来て、その仕様書にはグリーンプリンティング認定工場が望ましいという記載がありました。また、グリーンプリンティングマークやクリオネマークの表示がしたいという問合せも増えてきています。

今後は、VOC をどれだけ削減したかを見える化することが必要だと考えており、測定器の購入や専門家への相談を検討しています。また、環境に配慮した取組として、新たな商品展開についても模索し、取り組んでいます。」



紙ストローへの印刷(左)、バイオマスクリアシートファイル(右)など、環境配慮型商品の企画・販売にもチャレンジしている。

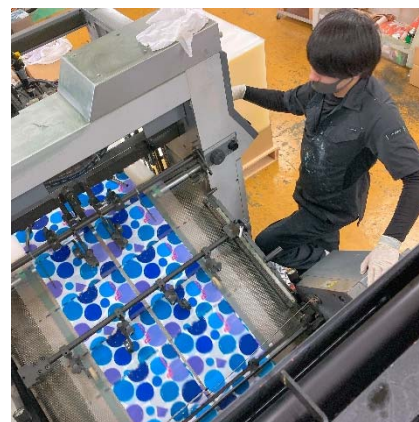


VOC 排出抑制における取組や導入設備の概況

LED-UV 印刷機での印刷



工場内の様子。整理整頓されている。



入社1年目の従業員でも、印刷のオペレーターとして活躍している。



LED(青色光)で照射し、インキを乾燥する様子。

拭き始め



拭き終わり

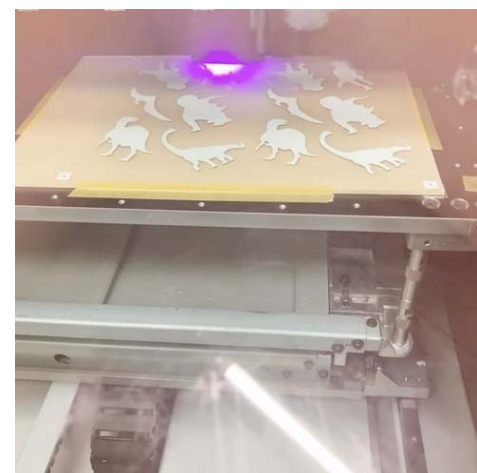


インキツボ（印刷機にインキを供給する装置）の清掃の様子。次に UV インキをのせた時の品質に影響を及ぼさないよう、5 分ほど丁寧に拭き続けて、インキを徹底的に除去。現場の従業員が LED-UV 印刷の特性に応じた対処方法を自分達で模索し、対応している。

その他の取組



廃ウエスなどを入れる容器として、密閉できる防火ダストボックスを採用している。



インクジェットプリント機でも LED-UV 印刷を採用。プラスチック板に印刷している。

VOC 排出抑制の自主的取組のポイント、取組がもたらす効果

自主的取組のポイント

取組の目標、方向性を考える	・後継者として、企業の在り方、魅力づくりを考えた際に、環境への配慮に着目し、グリーンプリンティング認定の取得を目指す
適切な設備、材料を選択する	・LED-UV 印刷機の早期導入 ・クリオネマーク ゴールドプラスの登録基準に準ずるインキや溶剤、湿し水を採用
社内できちんと実証する	・グリーンプリンティング認定の申請時に作成した手順書に従い、作業者が環境に配慮した取組を実践
社外の人に協力を得る	・グリーンプリンティング認定の審査員に、現地審査の際に様々な取組アドバイスを得る ・装置やインキ、溶剤など印刷資材全般をコーディネートできる県内業者の協力を得る
コストバランスを考える	・県内業者の協力により、予算に見合った資材の購入や切替を実施
補助金を活用する	-
VOC 排出量を算出する	-
日々の取組を積み重ねる	・廃ウエスやゴミ箱、インキ入れの蓋閉めなどの徹底 ・定期的なミーティングによる作業員間でのルール確認
従業員教育、人づくりの充実	・社長から従業員へ、環境配慮型の印刷工場としてのビジョンや作業工夫などを伝え、訴求する
営業、企業 PR	・HP、SNS(Instagram、Facebook、YouTube)で環境に配慮した取組等を丁寧に発信

取組がもたらす効果

VOC 削減効果	・ノン VOC インキ、低 VOC の洗浄剤や湿し水への切替による排出量削減 ※クリオネマーク ゴールドプラスの登録基準に準ずる
環境負荷低減（省エネなど）	・LED-UV 印刷の全面採用により、電力使用量を削減
コスト削減	-
健全な職場環境づくり	・若い人材や女性の採用及び定着が進む（平均年齢 37 歳、女性比率 60%）
顧客獲得	・環境配慮型の印刷工場として新たな引き合いが増える（行政関係、東京方面など）

持続可能な会社や社会の未来に向けた担当者のメッセージ

「環境への配慮は、世界共通の課題であるのに加え、企業の魅力づくりにもつながります」

印刷には、ヒトのチカラがとても重要です。大企業のように採用にコストをかけるのは難しいので、良い人材に自ら望んで来てもらうためには、企業の魅力アップがとても重要だと思っています。環境に配慮した取組は、魅力として競争が激化する印刷業界の中で企業の独自色として打ち出すものとして、また、世界共通の取り組むべき課題として注力しています。

さらに、ここ数年で環境に配慮した印刷ができるかどうかを重視するところが、より一層増えてきた印象を受けます。行政機関から受注した案件では、環境への配慮に関する取組状況を書類にまとめて提出することが増えています。

当社はネット受注が大半を占めており、直接お客様とお会いすることが少ないので、ホームページでの情報発信にも注力しています。環境に関する一連の取組も、もっと上手く伝えられるよう工夫できればと考えています。(代表取締役 松井 朋樹さん)



事業者プロフィール

企業名：株式会社マツイ印刷	設立：1983 年
所在地：福井県勝山市滝波町 1 丁目 607-2	T E L : 0779-88-0443
代表者：代表取締役 松井 朋樹	従業員数：13 名
事業内容：各種商業印刷（ネット印刷通販事業、カタログ・パンフレット等、ノベルティ・販促物の制作など）	
H P : https://www.insatsuyasan.com/	